

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293100010		
法人名	社会福祉法人 南山会		
事業所名	憩いの里富津		
所在地	富津市青木2丁目20番地16		
自己評価作成日	平成29年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング		
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13マコーラ第一ビル6階604		
訪問調査日	平成29年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設内は、間口の広い玄関となっており明るく、また、廊下もゆとりのある広さとなっております。設備は、オール電化で各居室にトイレや洗面所があり、入居者様にとって過ごしやすく暮らせるように配慮しました。キッチン是对面式となっており、食事は3食手作り、温かいうちに提供し、入居者様に好評いただいております。また、入浴も週3回行っており、とても喜ばれております。毎月行う行事には、地元ボランティアを招いたり近隣の保育園児との交流を行っております。入居者様とご家族様が面会しやすいよう施設利用料のお支払い、施設の窓口へ直接お越しいただき、面会の機会を設けています。協力医は24時間対応となっており、安心できる医療体制が築かれています。入居者様が、日々穏やかに伸び伸びと生活できるよう、個人の尊厳を尊重しながら支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は近くにショッピングモールや公園があり、散歩や買い物ができる便利な所である。他に高齢施設を4件持ち、合同で外出支援を行っている。一年を通じ色々な行事を行い、利用者を楽しませている。運営推進会議を行い、高齢福祉課や区長などの参加で話し合いが行われている。協力医は24時間対応で安心して医療を受ける事が出来る。食事には力を入れ、手作りで美味しい食事が提供されている。食事を写真に撮り、記録に残している。台所は対面キッチンで、利用者もお手伝いしやすい作りになっている。利用者は食事の後片付け、配膳など行い、利用者の個々の力を発揮し自信や張り合いに繋げている。職員には研修の場を作り、一年を通して毎月研修を行い、研鑽に務めている。居室は個々の洗面台やトイレが設置され、プライバシーに配慮され、利用者も安心して過ごす事が出来る。地域の人や場などの関わりを行い、地域に根付いた施設を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所内や玄関に提示し、毎月行われる全体会議等で再確認を行い、理念を共有して実践しています。	理念を玄関や事務所に掲示している。全体会議を行い、職員は共有し、地域密着サービスの意義や役割を考えながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩では地域の方々と挨拶や会話を交わしている。近隣の保育園の行事に参加したり、当ホームの行事に地元ボランティアを招き交流を図っています。	地域との付き合いは多く、散歩をする、保育園の行事や火災訓練に参加している。施設の行事にボランティアを招いている。地域社会と繋がりながら暮らし続けられるように交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や、突然の施設の見学に対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスや状況についての報告を行っている。会議での意見を全職員に周知話し合いを行いサービスの向上に努めています。	運営推進会議は年2回行なっている。参加者は高齢福祉課や区長などで行われている。サービス状況など話し合いが行われ、会議の様子は全職員に伝え共有している。意見はサービス向上に繋げている。地域の理解と、支援を得る為にも、積極的に働きかけを行いたいと考えている。	運営推進会議の回数と参加メンバーの充実を図り、なお一層の介護サービスの充実を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは密に連絡を取り、状況を伝えたり話し合いをすることで、協力関係を築いています。	介護福祉課には事故報告に伺う。社会福祉課には生活保護者の事で伺うなど、担当者には訪問していただくこともある。現場の状況を理解して頂き、また情報を共有し、連携を図りたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、すべての職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束はしていない。安全の為に入り口の施錠はしている。前は道路で、利用者の状態により危険である。外に出る場合は、見守りや声掛けを行い、安全に配慮し自由な暮らしに心掛けている。室内は自由に動くことができる。職員は身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて学び、職員の意識向上を図り、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度及び、成年後見制度について会議で学んでいます。成年後見制度については、事例があり支援を行っています。日常生活自立支援制度については、今後必要に応じて活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や不安点は、理解・納得していただけるように十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情相談窓口を設けており、契約書に記載すると共に説明を行っています。また、外部苦情窓口についても契約書に記載し、案内を行っています。	家族は訪問された時に苦情や相談をしてくれる。介護度の上がった時には、家族に説明し、家族の意見を聞いている。出された率直な意見はサービスの質の向上に繋がっている。家族には何でも話して貰える様な雰囲気作りに心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議や、年2回の個人面談で、職員の意見や提案を聴き、多くの意見を取り入れています。	月例会議を月末に行い、利用者の状況や実情を話し合っている。スタッフ全員参加で行い、意見・要望を聞く。気付きなどを聞いている。年2回、個人面談を行い、職員が向上心を持って働ける様にコミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績や能力によって給与水準を定めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修に参加したり、定期的に内部での研修会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互訪問があり、ネットワーク作りを行っています。他事業所との交流する機会を持ち勉強会を行いサービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず家族同伴の上で本人に見学に来ていただき面談を行っています。要望等を傾聴し、安心納得していただけるよう説明や話し合いを行い信頼関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ずご本人同伴の上でご家族に見学に来ていただき面談を行っています。要望等を傾聴し安心納得をしていただける説明や話し合いをさせていただき信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族のお話を傾聴し話し合うことで、その時に必要としている支援を見極めています。場合によっては、他のサービス利用についても説明を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯物たたみや居室の掃除、シーツ交換、散歩時に他入居者様の車椅子を押して頂く等、一人一人の有する能力に応じて出来ることをして頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共にご本人を支えていけるように、ご家族とは小さなことでも常に連絡を取るようになっています。必要であれば面会に来ていただき、直接ご本人とお話していただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年始の挨拶回りや食事会、墓参り、以前住んでいた商店街への買い物等、家族や知人との外出を容認し、関係が途切れることのないように支援しています。	家族は食事会、墓参り、買い物など今までの関わりが途切れないように心掛けている。知人、友人が訪問してくれる。手紙で連絡を取り合っている。継続的な交流が出来るよう働き掛けている。利用者同士の関係にも職員が調整役となり、支援を行っている。	利用者、ご家族との信頼関係をより築く為、今まで以上に連絡など取る様にして、ご家族アンケートの提出率を高める様、努力して欲しい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立することがないように、食事席等を配慮しています。散歩時に車椅子を押していただいたり、居室を自由に行き来され一緒にテレビを視聴されたり談話されるなど、利用者同士が関わりあえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も経過を伺い、必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動や会話の中から希望や意向の把握に努め、その人らしく暮らしていけるように会議等でも検討を行っています。	職員は利用者一人ひとりの思いや意向に関心を払っている。毎月利用者から要望を聞いている。話せない人からは、資料を基に検討している。どのように暮らすのが最良なのか、話し合い把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境やサービスの利用経過については入所前に情報を収集し毎月の会議等で話し合い、全スタッフが把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体状態や一日の過ごし方を把握し、その日その時の状態に合わせて対応し、過ごしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い、課題とケアのあり方について、話し合いを行っています。その意見に基づき、ご本人やご家族と話し合った上で、介護計画を作成しています。	毎月行うケース会議では、利用者の状態に変化が見られた時は、話し合いを行っている。課題は食事の内容を変えたい、車椅子に変えたいなど、本人、家族と相談し、介護計画を作成している。個別記録表に利用者の様子が細かく記録され、職員は共有している。必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、個別記録表に詳細に記録することで、情報を共有しています。必要に応じてその都度話し合いを行い、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われずに、その時々のご本人やご家族のニーズに対して柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園でのお花見やドライブ、買い物などで地域の方々と触れ合うことで喜びや楽しみを感じ取るが出来るように支援をしています。また食材に地元産の安全な農海産物を出来るだけ取り入れるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による2回/月の往診があり、必要であれば医師・ご家族・事業所相談の上、専門医を受診していただき適切な医療が受けられるように支援している。協力医は24時間対応となっており、急変時はその都度指示を仰いだり、往診を行っています。	協力医は月2回の往診で、24時間対応である。看護師も同行し、適切な医療が受けられる。医師の判断で専門医の紹介もして頂いている。受診結果を報告して頂き、共有している。協力医と相談しながら一人ひとりの健康管理や医療支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の往診時、看護師も同行し、情報や気づきを伝え相談をすることがある。電話連絡でもその都度相談し、医師に報告され適切な指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療が受けられるように、病院関係者やご家族と連絡を取り合って情報交換を行い、退院後に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、ご本人・ご家族・関係機関・主治医と十分に話し合い、方針を共有しています。地域関係者とのチームでの支援は、今のところ行っていません。	看取りは行ってない。何かあれば医師に相談している。重度化した場合は、本人・家族と関係者と、早い段階で対応し、方針の共有を図っている。家族や医療機関等と連携を図りながら、支援に取り組んでいる。一部の職員は普通救命講習を受講している人もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は普通救命講習を受講しており、応急手当や心肺蘇生の方法を習得している。また、緊急時の対応については、定例会議の場で、確認・周知を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により非難訓練を年2回実施しています。スプリンクラー設備、役割分担・連絡体制も各職員が認識しています。	年2回、消防訓練を実施している。消防署の参加で行い、夜間の対策や誘導の仕方など、訓練をしている。職員の連絡体制や役割分担、スプリンクラー設置、備蓄は1週間分備えている。職員が近くから来ている人が居り、安心である。地域との協力体制を強化したいと考えている。	消防訓練や災害訓練の避難対策は大変な仕事ですので、出来れば年3回行い、特に夜間を想定した訓練を重点に行い、地域との協力体制を築く事を特にお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人権や人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を行っています。	全職員は利用者の尊厳と権利を守り、言葉掛けに注意している。居室にはトイレが設置されプライバシーが守られている。年長者として敬意を払い、馴れ合いの中での対応に充分注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表すことが出来るよう働きかけ、納得して暮らしていけるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や日課の体操など時間の決まりはあるが、それ以外はご本人のペースで過ごされています。散歩や買い物など出来る範囲で一人一人のご希望に添えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを聴きながら着替えの準備をするなど、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう毎食メニューの掲示を行っています。食事の準備や盛り付け・後片付け・配膳など個々の能力によって出来ること・得意なことを職員と一緒にしています。	食事は手作りで、食欲を注ぐ料理が提供されている。色彩や食器にこだわっている。利用者によっては、準備や盛り付け、後片付けを行っている。見守りや支えがあれば力を発揮できる。とろみ食や刻み食、おかゆなど、利用者の状態に合わせて提供している。行事食の提供もあり、気分も変わる。食を通した様々な取り組みを行い、楽しみや喜びとなるように取り組んでいる。	食事を楽しむ事の出来る支援は色々工夫されているので、毎日の献立表をご家族にもわかる掲示をお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態により食事形態を変えたり、好みの飲み物を提供している。また、苦手な食べ物はご本人の好みに合わせて代替品を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力や口腔状態に応じて、介助及び声掛け・見守りにて口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間での声掛けや、トイレ誘導を行うことで、排泄の失敗を減らすように支援しています。オムツ対応の方でも、日中はトイレ誘導を行いオムツの使用を減らすように支援しています。	自立に向け声掛け、誘導を行っている。布パンツを使用している利用者が多い。おむつ、リハビリパンツ等を使用している。トイレが居室にセットされ、行きたい時に行ける。羞恥心や不安を軽減する配慮がされている。便秘予防の為に食事に心掛けている。乳製品、水分補給、運動など、便秘対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には繊維の多い食品や乳製品を積極的に取り入れています。また、日課の体操以外にも運動を行っていたり、ペットボトルに入れた水を居室に置き、いつでも水分が摂れるようにと個々に応じて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決まっているが、それに合わせてご自分の着替えを準備したり、順番を確認されたり、皆様楽しみにされています。入浴の方法については個々に合わせた支援を行っています。季節に合わせて、菖蒲湯やゆず湯などを行い、入浴を楽しめるよう支援しています。	入浴は週に3回入る事が出来る。午前中に入るように決めている。入浴拒否をする人も多く、一人ひとりの意向に添った支援に心掛けている。季節に合わせ菖蒲湯やゆず湯を実施し、入浴を楽しみにして頂ける様に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて、自由に休息していただいています。個々によっては時間を見て離床の声掛けを行い、夜間良眠できる様に支援しています。夜は睡眠時間を決めず、ご本人の希望に添って就寝していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて情報を共有し理解している。症状の変化等あった場合は、速やかに医師に連絡し適切な指示を仰ぐと共に職員への申し送りをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯物たたみ、おしぼり配りなど個々の力を活かした役割を担うことで張り合いのある日々を過ごしていただけるよう支援しています。季節の行事や誕生会を行うことで楽しみや喜びを感じて頂いたり、散歩などで気分転換を図っていただけるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人の希望に添えるよう、ご希望があれば買い物や散歩、ドライブなど、戸外に出かけられるよう支援に努めています。ご本人のご希望を把握し、ご家族の協力を得て外出できるように支援を行っています。	日常的な散歩、4施設合同で外出、お花見、初詣、ドライブ等、出かけることも多い。外出しない利用者には体操やゲームを行っている。一人ひとりが外出を楽しめるように短時間でも戸外に出て日光を浴びる、ストレス発散、職員と一緒に気分転換になる。地域の人との関わり、本人の意欲や自立を保つ為にも大切。家族、職員と協力しながら支援に心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている方はおりませんが、ご家族よりお預り金があるのでご希望があれば買い物へ行き、ご自身で支払いを行う支援をします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を受け継いだり、職員がご家族へ電話をかけて取り次いでいます。手紙のやり取りはご本人の要望に合わせて支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンが設置され、食事時はいろいろな音や匂いなどで生活感が感じられる空間になっています。廊下やリビングには四季折々の植物や果物を飾り、四季を感じて居心地良く過ごせる工夫をしています。	玄関は広くバリアフリー、リビングでは利用者がテレビを見て寛いでいる。壁には折り紙の作品が数々飾られている。台所は対面キッチンで、赤が印象的である。利用者がキッチンでお手伝いを行う。家庭的な雰囲気があり、利用者が自分なりの活動がしやすくなる。居場所作りがされ、安心感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ゆっくりとテレビ視聴や団欒が出来るようになっていきます。また、玄関・ホール・テラス、廊下にはベンチや椅子を配置し、一人一人が好みの場所で過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ち込んでいただき、写真やお花など好みのものを飾られ、ご本人が居心地良く過ごせるよう工夫しています。	居室には備え付けのトイレ、洗面台があり安心である。好みの家具や置物やテレビなどがある。自宅とのギャップがないように、配慮されている。居室内は整理整頓され、清潔感があり、過ごし易い工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはトイレと洗面所が設置され、手すりはトイレや廊下等、要所要所に設置してあります。各居室にトイレがあることで、トイレに迷うことなく安全で自立した生活が送れる環境になっています。		